

企業名： エクシオグループ

レポート名： 「統合報告書 2024」

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

よく理解できる。エクシオグループは「つなぐ力」をキーワードに、2030 年までに①通信キャリア事業②都市インフラ事業③システムソリューション事業の 3 セグメントの事業に関して、その規模を同程度の水準までの向上を目指している。また、持続可能な組織づくりのために「幅出し」「仲間づくり」「スピード感」の 3 つを繰り返し発信している。この 3 つの実現のために「全社人財データベース」の構築を行っている。定量面、定性面どちらにおいても目指す姿が明確であると感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

概ね理解できた。これらの内容は、統合報告書内の「価値創造プロセス」の章で見ることができる。「70 年にわたり培ってきた技術力で多様な価値を社会に提供」という文言から始まり、5 つの強みがあげられておりまさに優位性が示されていると感じた。特に、挙げられていた 5 つの強みの中でも、「確かな技術力」に自信を持っている姿勢が統合報告書からは読み取ることができた。本業の柱である通信キャリア事業で培った技術力を生かし、様々な事業へとその技術力を活用している強さが報告書から伝わってきたように思う。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

非常によく理解できた。当内容は、「価値創造を支える資本と強み」という章から読み取ることができる。当社は価値創造の源泉となる非財務資本の強化を推進しており、「筋肉質な財務力」「確かな技術力」「DX 活用による安全・品質管理」「多様性を大切にする企業風土」「グループ・パートナーの総合力」の 5 つに関して、それぞれ充実への取り組みが定量・訂正の両面で示されていた。また、それが競争優位性の持続性に寄与すると判断するに十分であった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

部分的にそう思う。人材戦略という章の中で、人的資本拡充に向けた戦略・取組があげられていたが、「採用」「育成」「文化」という 3 つの観点から、人材育成を推進していく取組が提示されていると感じた。一方で、「構成な評価と処遇」の部分に関しては、成果を公正

に評価することで、やれば報われる仕組みを。とあるが、開示されている情報が、「上司との対話の実施率」であった。「やれば報われる」のうち、「この取り組みによって頑張りがどう報われているのか？」が見えづらくこの点は改善ができるのではないかと感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

よかった点。「つなぐ」という言葉をキーワードとして押し出し、セグメント別戦略・人材戦略に関して網羅的に記述されていた点。これまで紡いできた技術力を中心に、エクシオグループの競争優位性と今後のビジョンが明確に見えた。改善余地としては、非財務資本の強化に関する記述をより増加させるとよりよいのではないか。現状の開示に加え、社員のスキル向上・人的資本の蓄積のために取り組みの開示のみにとどまらず、社員がスキルを身に付けていく・それを組織としてどう活用するかというロードマップをより詳細に示すべきであると感じた。これらの開示の充実がエクシオグループのさらなる成長に寄与すると考える。

参考文献

・エクシオグループ『統合報告書 2024』

[report2024_jp.pdf](#)